

都道府県番号	44
都道府県名	大分

【 】
*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	大分県日田市立光岡小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	38
児童数	88	89	106	101	101	99	5	589	

研究の概要

(1) 研究主題

子ども一人ひとりが確かな学力を身につける教科指導をめざして
～教科の特性を生かした学習指導のあり方～

(2) 研究主題設定の趣旨

本校が学力フロンティアスクールの指定を受けたのは平成15年度からであるが、今年度の取り組みはそれ以前からの取り組みも大きく関わっている。
13年度：三部会並行研究（ＴＴ・総合・国語）の中で算数科ＴＴの指導方法についての研究を行い、副担任による算数専科および担任による補助指導、学級担任の相互乗り入れによる教科担任制が出来上がる。
14年度：算数指導に重点を置き、指導形態、単元構成についての研究を進める。教科担任制は国語・社会・理科で行う形が出来上がる。
昨年度までの取り組みにより、本校のＴＴ体制も確立し、算数科においても単元構成・指導形態の工夫などにより一定の成果を上げることができている。しかし、成果を上げているとはいったものの校内研究の中で概念の不足を指摘されるなどまだ十分とはいえない状況である。また、教科担任制を行っている四年生以上の国語・社会・理科においては、研究として扱ってこなかったため、個人研究に委ねた状態であり、「教科担任制の良さ」を十分に生かし切れない状況があった。
そこで、今年度は研究の舞台を四教科に広げ、算数科においてはさらに研究を深め子どもの考える力を高めるとともに、国語・社会・理科においては子どもの実態を見据えた上で、確かな学力に結びつけるために身につけさせなければならない力を焦点化して取り組む。また、教科担任制の良さを生かし、研究の成果を反映させた各学年縦につながる指導（指導内容・指導方法）を行う必要がある。
以上のように、四教科の並行研究を進め、教科の特性を生かして取り組むことにより、「確かな学力を身につけさせる」ことをめざし、本主題を設定した。

研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

(1) 研究推進体制の工夫



部会を「教科部会」として位置付けられることは、教科担任制を行っているからこそできることであり、本校の大きな特徴である。

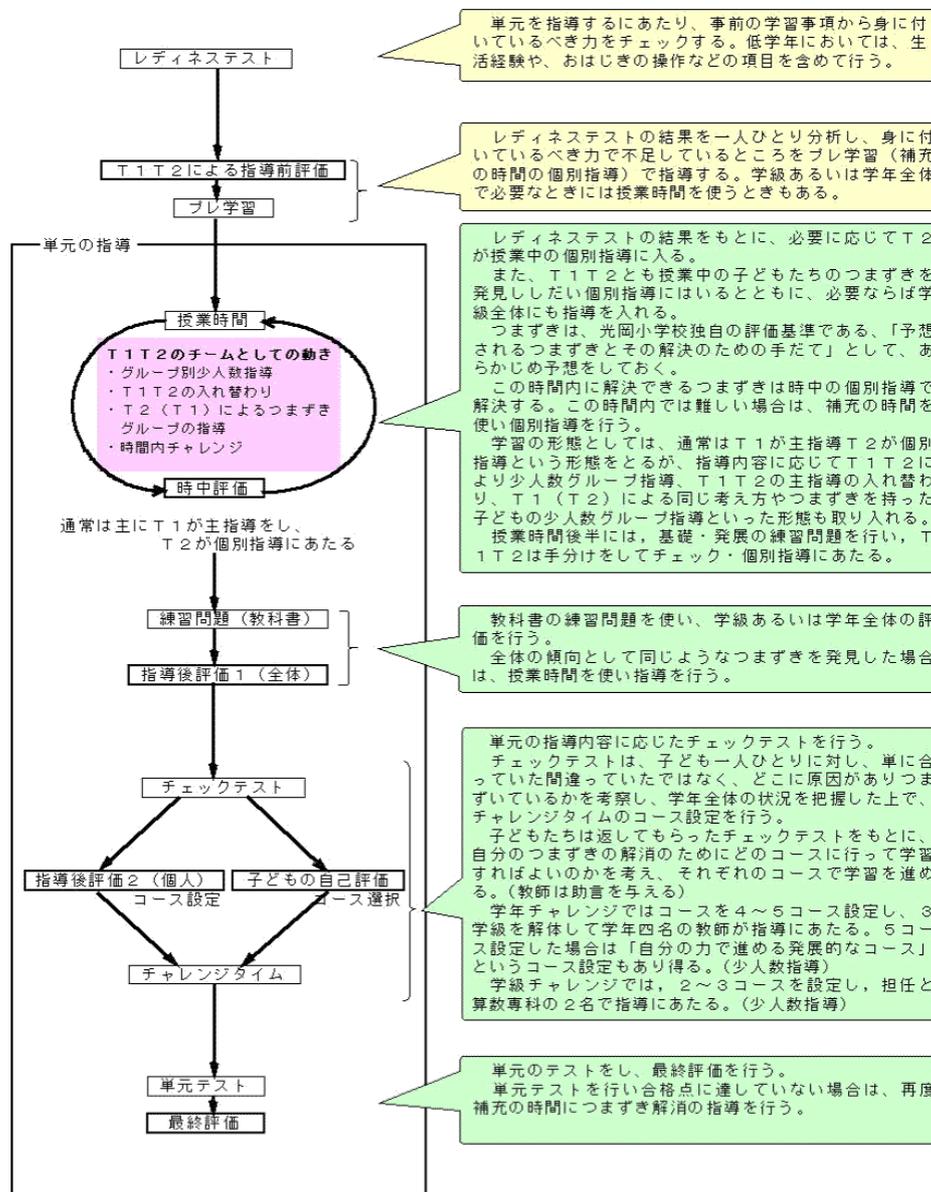
(2) 研究の実際
《四教科並行研究》・・・各部会の研究主題

- ・国語科研究部会
子ども一人ひとりが、確かな読みの力を身につけるための指導は、どうあればよいか
- ・社会科研究部会
子ども一人ひとりが資料を読みとる力を身につける、社会科指導をめざして
- ・算数科研究部会
一人ひとりの子どもの考える力と確かな学力を保障する算数科の指導
- ・理科研究部会
一人ひとりの子どもが根拠にもとづいた予想を立て、主体的に解決していく理科学習

《個に応じた指導》
算数科研究部会の例

光岡小学校算数科学習 単元の流れ

※単元の指導前にあらかじめ指導内容を確認し、
T1（副担任）はT2（学級担任）の出番を含めた指導計画を立てる。



(3) 研究の成果と課題

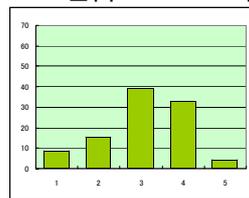
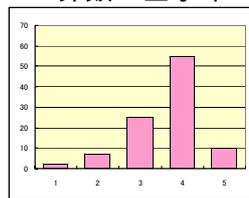
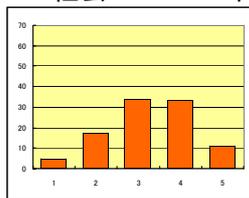
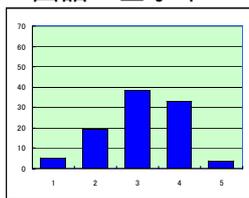
平成14年度 標準学力検査

国語 全学年

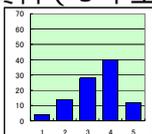
社会 3～5年

算数 全学年

理科 3～6年



参考資料 (5年生・11月実施, 国語・算数)



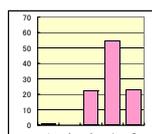
国語・算数

1・2・6年生

H15年3月実施予定

3・4・5年生

H15年4月実施予定



社会・理科

3・4・5・6年

H15年3月実施予定

今年度において、学力検査は未実施のため、客観的資料としての昨年度との比較ということにはできない。しかし、教科部会を設置したことにより、全員が必ず一回は提案授業をしたことや、教科担任がこれまで個人研で行っていたことを教科部会の中で深めながら研究を行ったことなどから、教師自身の授業の力が高まったことは明らかである。このことは、子どもたちに深く考えられた授業を提供することにつながっており、学力検査は未実施ながらも、各部会とも授業中の子どもの変容から、研究主題の達成に向けて確かな手応えを感じているところである。

(4) 研究成果の普及の方策

平成16年1月30日(金)

本校TT体制に関する研究発表会

内容 光岡小学校のチームティーチングシステムについて

～教育力向上をめざすTTシステムの構築とその運用～

118名参加 研究紀要一冊作成(TTおよび研究全般)

平成16年2月6日(金)

本校校内研究に関する研究発表会

内容 算数二人体制と教科担任制を連動させた四教科研究について

148名参加 研究紀要5冊作成(TTおよび研究全般・国語・社会・算数・理科)

研究視察受け入れ

教育雑誌取材受け入れ

(5) その他(その他特色ある取組等がある場合に記述)

総合的な学習の時間: 総合A・総合B・総合Cの枠組みを持たせた取り組み

総合A: 学級で行う総合の時間

(英会話・各教科の補充発展・コンピューター技能 など)

総合B: 学年で行う総合の時間

(学級の枠をはずし、一学年100名を4つのコースに分けて追究させる)

総合C: 学校全体に関わる総合の時間(行事等に関わる)

(運動会応援の団ごとの練習・六年生修学旅行自主研修の計画立て など)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】

【学校規模】

【指導体制】

【研究教科】

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

■ 15年度からの新規校

□ 6学級以下

□ 13～18学級

□ 25学級以上

■ 少人数指導

■ 一部教科担任制

□ 生活

□ 体育

■ 社会

□ 音楽

□ その他

□ 14年度からの継続校

□ 7～12学級

■ 19～24学級

■ T・Tによる指導

□ その他

■ 算数

□ 図画工作

□ 理科

□ 家庭

■ 有 □ 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

教師の持ち味を最大限に生かし、学年としてのまとまりを重視した教科担任制

児童の実態や学習内容に応じた多様なTTシステム

算数における基礎学力の定着を図るための学習展開のパターンの確立